

# 介護ロボ 県内導入加速

## ・リフト、スーツで移動軽々・会話や歌癒やし効果



会話をして利用者を  
楽しませるPALR  
O=23日、静岡市葵  
区の「晃の園」

介護現場の深刻な人手不足解消やサービスの質の向上を目的に、国が介護ロボットの導入や開発を後押しする中、県内の介護施設でも介護ロボットの導入が進み始めている。県が県内の入所系介護保険施設を対象に2016年度に初実施した調査によると、ロボットやICT（情報通信技術）を導入しているのは、回答した201施設中、68施設。そのうちの約9割で「職員の負担軽減」などの効果が見られたという。

（社会部・牧野めぐみ）

## 「職員の負担軽減」9割

静岡市葵区の特別養護老人ホーム「晃の園」は6年ほど前、高齢者をシートに座らせたまままったり上げ、車いすからベッドや風呂へ移動できる介護リフトを取り入れた。小柄な女性職員が大柄な男性高齢者を介助するケースもあるが、窪野利明事務局長は「職員の体の負担が減り、腰を痛めず長く働き続けられるようになった。利用者も力

まず、安心して身を任せられることができる」と説明する。2年ほど前にはコミユニケーションロボット「Pepper（ペッパー）」と「PALRO（パルロ）」を導入。パルロは会話だけでなく、童謡から最近のヒット曲まで歌い、体操や落語もできる。「ロボットと話せる時代まで生きてよかった」と好評だという。



圧縮した空気を動力源として身体的負担を軽減するマッスルスーツ。24日、三島市のサンリッチ三島

三島市の介護付有料老人ホーム「サンリッチ三島」はパルロに加え、昨年10月に介護支援型ロボット「マッスルスーツ」を採用。圧縮空気を動力源とする

「高年齢者の移動介助が軽々とでき、腰の負担が減った」と喜ぶ。福祉家英也社長は「ロボットが人の代わりをするわけではなく、使いこなして初めて効果が見える」と話す。県福祉長寿局によると、16年度に厚生労働省が打ち出した介護ロボット等導入支援特別事業に県内の約130施設が申請。1施設当たり約93万円が支給されることになり、さらに導入が進む見込みだ。

## インスリン投与供述

### 1歳娘へ傷害容疑 母親「仕事休める」

大阪

1歳の長女を低血糖と容疑を否認していた院で複数回、長女にインスリンを投与したとして、大阪府警に傷害の疑いで逮捕された母親の光吉彩夏容疑者（21）が同日府高槻市で「子どもが体調不良になれば仕事を休んでも許され



## 爆破予告で

### レース中止

徳島・鳴門の競艇場26日正午ごろ、徳島県鳴門市が運営するボートレース（競艇）場「ボートレース鳴門」（同市）に、男の声で場内に爆弾を仕掛けた。午後2時ごろに爆破す

鳴門市によると、場内には当時、約1200人の客がおり、安全確保のため、午後1時15分ごろからの第5レース以降を中止した。午後2時の時点で爆発はなく、鳴門署の捜索でも不審物は見つからなかった。四国では今月12日に